



# 2011年夏 HOME VISIT PROGRAM

JICA 研修員の皆さんを IIN 会員の家庭に迎えるこの行事。今年度は、3月の大災害の影響から、例年通りの6月に実施できず、7月23日に延期しました。しかし、(諸事情により)今年度で JICA 行事は最後になるという状況が会員の背中を押したのか、10人が「受け入れ家庭」に手を挙げました。ベテラン会員に交じり、初参加も4家庭ありました。さてさて、まずは初参加の皆さんの報告をひもときましょう。

< 1 >



今回初めての参加という事で、どのような事をしたら良いのか、よく分からず、行き届かぬ部分も多々あったことと思いますが、私の家族は皆貴重な体験ができ、とても楽しく過ごさせていただきました。

母も私も料理が好きのため、和風のお菓子やお茶と、念のため、洋風を少し和風にアレンジしたお菓子も用意して、その素材などの説明などをして、日本の文化を若干紹介させていただき、興味を

持っていただけたようでした。

バングラデシュのお客様が特にお話好きである程度お話もはずんでいたように感じたのですが、マラウイからのお客様はお話されるチャンスが少なめで、退屈されたのではないかと心配しております。直接では仰しやりにくいこともあるかと思っておりますので、もしフィードバックにて忌憚のないご意見を入手されましたら、今後のためにも是非お聞かせいただきたく思っております。

< 2 >



先日のホームビジットでは、とても楽しく充実した時間を過ごすことができ、ゲストのモルジブ人のラシードさんも喜んでくださいました。

実は、夫に急な出張が入ってしまい、私と娘だけになってしまいましたが、娘が習い始めた剣道のデモンストレーションをお見せしました。ラシードさんは、友好的で、礼儀正しく、こちらの思いを受け止めようとしてくださるのがよく伝わるとても素敵な方でした。子どもも交え、和気あいあいとあっという間の四時間でした。家では、水ようかんとえびせんべい、緑茶とピーチティー等を楽しんで頂きながら、お互いの

家族や国についての話をしました。折り紙、書道なども体験して頂きました。

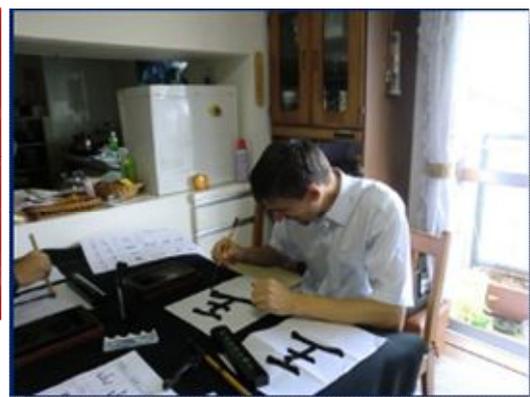
今回出張で夫が会えなかったのが、次回、食事に来てもらう約束をして、お送りしました。



< 3 >

会員のIさんとWさんのご協力を得て、我が家で初めて男性お二人の受け入れをいたしました。

モルドバの研修員のイオンさんとタイの阪大留学生のビュート君です。ふたりとも書道に興味があるということで我が家に振り分けて下さったんですね。(はい、この会員は書道の先生ですから！)



さすがに興味があるというだけあって、ふたりとも初めてとは思えないほど上手で最後に色紙に「王」と「月」という字をそれぞれ書かれてひとつのおみやげとなりました。

その後、浴衣を着て貰って抹茶を召し上がって頂きました。抹茶碗は正面で飲まずに二回まわして裏側で飲むことと茶筌はお茶を点てたとき最後に「の」の字を書いて引き上げると雫が垂れないことを伝授しました。

イオンさんは日本人の英語が聞きにくかったみたいですが、幸いビュート君が日本語もできたので通訳してくれました。あっという間の4時間でした。書道もゆかたも大変喜んでいらっしゃいました。日本の文化に触れて頂くお手伝いできたことは私にとってもいい経験と思い出になりました。助っ人のおふたりにも細部にわたって助けて頂き感謝しています。

そうそう昨日ビュート君からお礼のメールが届きました。彼はもうしばらく日本にいますので再会できると思います。

< 4 >



ネパールの Adhikari さん(40)とエリトリアの Robel さん(30)を迎えました。私方は娘と孫が参加してくれました。

ネパールの Adhikari さんは道路技師で3か月の研修で来たそうで、ネパールの地図の上でハイウエーの位置を説明して下さいました。発音が聞き取れず判らない顔をしていたら、エリトリアの Robel さんがわかりやすい英語で内容を説明してくれるという和やかな雰囲気が進みました。

Robel さんのエリトリアは紅海に面する国だそうで、オスマントルコ、エジプト、イタリア、イギリス、エチオピアに支配され独立した歴史を聞きました。新しい国を背負っていく熱意を感じました。

どちらもお子さんをお持ちなので、後半は孫たちとランプゲームで盛りあがりました。





初めての受け入れの皆さんの謙虚さと新鮮な感動と高揚感がよく伝わってきますね。これからもお付き合いが続くかどうかは、相性と粘りとお国の事情によります。随分と前ですが、Home Visit の受け入れをした会員の娘さんがその研修員とお友達になり、後に結婚式に招待されて、アフリカの国まで遊びに行ったという武勇伝もありますよ。ご参考まで・・・。

さて、これから後は、何回も受け入れをしてきたベテランの会員の登場です。どうぞ！



< 5 >

0さん宅にて ネパールとチリの男性お二人お迎えいたしました。日本も初めて もちろん日本の家庭を訪問するのも初めての方達でした。それぞれお国のお話を聞かせて頂きました。

ネパールのMANO Jさんはエベレストの山の写真やお釈迦様の誕生した地に建てられたお寺の写真等ご持参でお話しをして下さいました。エベレストには多くの日本人の登山者が登りに来るとおっしゃっておられました。

また、チリのALVEROさんは愉快的方で日本のアニメがお好きでよくご存知でした。チリは南北に細長い国で 南半球なので日本とは逆で南が寒いこと。チリも日本と同じで地震が多いそうで、チリ地震で津波が日本にまで届いた話等・・・

お二人共勉強のテーマの「自然災害の復旧対策」の研究の為 昨日東北に見学に行かれたそうです。

お着物を着て頂き 0さんのお嫁さんのお点前で茶道を体験して頂きました。とても真剣に細かい所まで観察し 作法どおりお茶を飲まれました。茶道に興味を持っていらっしゃる方達でしたので とても熱心にお手前をご覧になっていました。Kさんの英語での解説でよく茶道を理解されていました。



次々お話しをしているとアッという間に時間が過ぎてしまいました。ネパールの男性は 今日の写真をすぐ本国の妻にインターネットで送り報告すると言っておられました。お二人とも とても喜んで帰られました。

私達も良い国際交流が出来満足致しました。楽しいひと時が過ごせこのイベントに参加でき、本当に良かったと思いました。

< 6 >

7月23日(土)の Ms. Shahnozahon(シャノーザホンと発音) from Tajikistan の Home Visit は、最高でした。(\*。^\*)+(^0\_0^)+)^o^(

何しろ、ご本人シャノーザさんが明るく積極的な性格で、また屈託なく、話していて楽しく、話題がどんどん拡がりました。本当に一晩中でも、皆で一緒に語り明かしたい気分でした。……ソレニ 若いT A J I K美人ですから、ナオサラデシタ。

とにかく、この組み合わせが決まるまでは、T A J I K I S T A N って？どこに在るの？どんな国？という程度の知識しか持ち合わせがなく、どんな御歓待をすれば楽しめるのか？不安で一杯でした。また、シャノーザさんは、電気工学の修士号を持つエンジニアで an assistant professor, Tajik College、(私は機械工学のエンジニア) 直ぐに意気投合？でした。

それで我家のリビングでの行事ですが、お抹茶立てを手ほどきし、流儀にノットリ戴く、御かわりもありました。次の着付では、娘の浴衣を着せてもらい、”夢のよう！！”と、アフレル笑顔。本当に良い性格の独身女性でした。

なお、今回は、枚方に住む孫(中学3年女子)とその母である我が娘の親子も初参加し、とても感激していました。



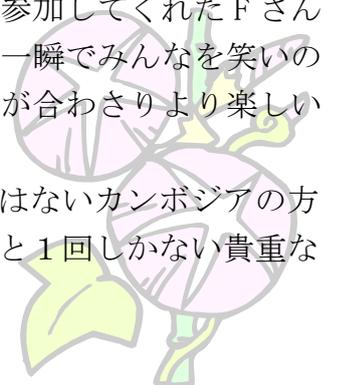
< 7 >

初めて我が家に J I C Aから女性のお客さまがやってきました。七夕で同じテーブルで、仲良くなつた綺麗なメキシコの女性です。そしてカンボジアから、とてもシャイで温和な男性です。カンボジアの方は、初めてなので楽しみでした。ただ、彼はあまり英語が得意ではなく、あまりたくさん話を振ると困ってしまうような印象で、カンボジアのお話はあまりうかがえなかったです。でも、いつもにこにこして、優しいお人柄は十分伝わってきました。その分、社交的で明るいメキシコからのお客さまが、パソコン持参でメキシコでの自分の結婚式の写真などみせながら国民性やしきたりの説明をしてくれて、みんなでもりあがりました。

メキシコと日本の人々の違いを聞くと、貧富の差がメキシコは激しいことをあげ、それにはカンボジアの方も賛同し、それぞれの国がかかえる問題が浮き彫りになりました。17歳も息子は、その話を教科書で読んだことがあると、教科書を持ち出したりして、世界の問題を生で感じる事ができたようです。

そんな少し深刻な話になったとき、場を和ませてくれるのが、お手伝いで参加してくれたFさんです。彼の、ストレートで素直で、なおかつ思いやりのある質問や意見は、一瞬でみんなを笑いの渦に巻き込んでくれました。複数でおもてなしすると、色んな切り口や観点が合わさりより楽しいものになりますね。

あつという間の3時間半でした。アドレスの交換をし、話すのが得意ではないカンボジアの方も、メールでのKeep in touchを約束し、J I C Aでお別れしました。あと1回しかない貴重な出合いを大切にしたいと思います。



< 8 >

このたび我が家に来ていただいた方々は、スリランカよりブラーさんとブータンからのタシーさんでした。たまたま、夏休みでアメリカより帰国していた娘一家のマーク、孫二人も加わって本当にワイワイ、ガヤガヤと楽しいひと時を持つことができました。

ブラーさんは、PCと自国のパンフレットを使って民間観光大使さんながらのお国紹介をしてくださりつかの間のスリランカ旅行を！そしてご自分の家族の紹介もPCで。可愛い奥様と2人の男子そして御両親。なるほど”百聞は一見に如かず”・・・御自宅と周辺の風景やお子さんたちの学校の様子など、よくわかりました。



一方、タシーさんも、なんとといってもヒマラヤの仏教国、世界一幸せな国ブータンをPCを駆使しての紹介。禁酒、たばこ販売禁止、ギャンブル禁止。国によって大切なのはGNPではなくGHS (Gross National Happiness) であるそうです。ブラーさん御持参のセイロン茶を本格的に入れていただき、そしてそのティーを頂きながら”幸せって何だろうか？”と思いました。

この様に数時間が、あっというまに過ぎ、最後に、ご希望でありました”お抹茶”をみんなで各々お盆手前をしてお開きとしました。驚いたことに、セイロンティーの御代りの声は上がらず、なんとお抹茶をみんな2回御自服で頂かれました。

今回は、娘一家にもとくに孫たちにたくさんの楽しい夏の思い出の一つになったことでしょう。



< 9 >

我が家には、カンボジアの方とチリの方に来ていただきました。小学生の息子の習字道具を借りて、書道を体験していただきました。墨を使う前に、水でお習字という、おけいこの用紙で練習してもらいました。その時の写真です。

墨を使って書いたものを、持って帰っていただくだけでなく、我が家にも、それぞれのお国のことばで素敵なメッセージをいただきました。

我が家の家族にとっても、楽しい文化交流の一日となったと思います。



< 10 >

今回我が家に来ていただいたのはナイジェリア人の Innocent さん、バングラデシュ人の Amin さんです。お二人ともそれぞれの国では災害に関するお仕事にたずさわっている方で、話題は東日本大震災に関するものが多かったです。ホームビジット前日まで、まさに東北の津波の現状を視察に行っていたとのこと。たくさんの東北の写真を見せていただき、私たちの方が日本の今について

教えていただくことが多々ありました。

我が家には2才の女の子がおり、ちょうどお二人とも乳幼児を持つ方だったので、子育て談義にもなりました。どの国も核家族化がすすんでいるけど、それって子育てにはどうなのか、など。お二人ともとても上手に子供と遊んでくださったのですが、帰りには家がとても恋しいとお話されていて、研修員の方のさみしさも知ることが出来た気がします。



JICAに戻られた後もメールを何度かやりとりしています。  
帰国後も連絡を取り合えたらと思います。



たくさんの感謝に支えられて、この行事は続いてきています。受け入れを体験した人と体験していない人の差は大きいのだろうと、今回再認識しました。参加者はいつも、受け入れのためにたくさんの時間とドキドキを費やすにもかかわらず、終わりを迎えた時には疲れよりも先に感謝が口を突いて出てくる・・・「体験」の持つ本物の力なのでしょう。最後の JICA home visit 受け入れは、10月1日（土）です。

今回受け入れを決心して敢行してくださった皆様、ありがとうございました。

